

わか草

第30回 平成26年4月1日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25

2014年の春によせて

東京都立東部療育センター
院長 加我 牧子

寒かつた冬がようやく去り、またふたたび咲き乱れる花の季節が巡つてまいりました。二〇一四年四月一日、有馬正高院長の後任として東京都立東部療育センター院長を仰せつかりました加我牧子です。有馬先生は二〇〇四年四月東京都における当センター開院そして今年三月三十一日までのちちょうど十年間に○〇五年十二月当センター院準備室開設の段階から、二〇一五年四月一日、馬正高院長の後任として東京都立東部療育センター院長を仰せつかりました加我牧子です。



院長就任挨拶
<平成26年4月1日>

わたくつて常に当センターの先頭に立つてご活躍になり、患者さんやご家族、すべてのスタッフ、そして当センターを支えてくださる多くの方々とともに明るく、やさしく、そして高い機能をもつ病院を築いてこられました。二〇一四年四月一日、馬正高院長の後任として東京都立東部療育センター院長を仰せつかりました加我牧子です。有馬先生は二〇〇四年四月東京都における当センター開院そして今年三月三十一日までのちちょうど十年間に○〇五年十二月当センター院準備室開設の段階から、二〇一五年四月一日、馬正高院長の後任として東京都立東部療育センター院長を仰せつかりました加我牧子です。

いうまでもなく当センターはさまざまな障害をもつ方々のための病院であり、病棟にはクリスタルガラスのように繊細で美しい命を生きる、特に重い病気、重い障害を持つ方々が長期に入院していらっしゃいます。病棟に短期入院・あるいは短期入所なさる方々も、ご家庭ですごしながら通所部門を利用していらつしやる方々も、また外来を受診なさる方々も、その原疾患はさまざまながら障害の重さの点では長期入院の方々に負けず劣らず決して軽いものではありません。

当センターでは、開設後八年四ヶ月にわたつて、患者さん・利用者の方々に最善の医療をお届けすることもとより、暮らしを豊かにし、楽しい時間、素敵な思い出を増やすための方法を模索し、工夫し、実行してきています。これはスタッフ総出で、知恵とハートとパワーを出し合つてきたからこそ実現できた結果であると思います。この背景には当センターの運営を担当する「社会福祉法人全国重症心身障害児・者を守る会」の基本原則である「お互い争うこと

なく、自分のことだけを主張するところなく、最も弱いものを一人もろなく守る」という高い志があり、スタッフ一同がこの志を核として、誇りを持って仕事を続けてこられたことが大きな要因であつたと思います。

「最も弱いもの」は未来永劫、常に同じ対象とは限らないかもしれませんし、最も弱いがゆえに、ガラスの輝きを放ついのちは常に守り育てるため前向きにかつ意欲的に力を發揮ではないことを知りながらも、一人ずつすばらしいのちを守り育てます。当センターを利用なさる方々も、当センタースタッフ一同も、当センターにかかわつてくださる方々の高い志の上で、それらのつとめと暮らしに喜びを感じられるようであつてほしいと願つてあります。心身になんらかの障害のある方々のかたわらで、ひとの世のいのちのよろこびと悲しみをともに感じながら、私も当センターのすべてのスタッフとともにこの志をいだいて努力してまいります。

有馬先生には今後も名誉院長としてセンターにご貢献いただけることになつていています。これまで以上に当センタースタッフ一同と、新米院長にみなさまのご協力・ご支援を賜りますよう切にお願いする次第です。

成人式



成人式の様子（二階西）

卒業を祝う会

三月十九日、かもめ分教室「第七回卒業を祝う会」が催されました。小学部四名、中学部一名、高等部三名の方が卒業されました。学校の先生方やセンターの職員、そしてご家族に囲まれて、とても晴れやかで素敵な卒業式でした。



卒業を祝う会にて

かもめ分教室卒業を祝う会



成人式の様子（通所）

（堤様のお父様より）成人という大きな節目を盛大に祝つていただき、本人・家族共々、お礼申し上げます。病棟の方々には、お忙しい中、趣向を凝らしたアイデア一杯のイベントで本当に楽しめました。「晴れ姿、どうかしら?」「私はキレイ?」「もう大人ね。」「ありがとうございます。」の声が聞こえてきそうなりました。

（吉田様のお母様より）まずはよね（親の欲目ですが）。皆様がよりよい生活が送れますようにお祈りいたします。ありがとうございました。

（吉田様のお母様より）人は人生の節目をこんなに沢山の人に祝つて貰えることが何度あるでしょうか。今や私が背中を押される程に大きく成長し、自分のやりたいことが明確になり驚く程の成長に感謝と感動で幸せな日々でした。人生の同志として生きていく事、一緒に経験しVサインが出せたら最高なのではと実感しています。

これからも息子の強さを信じ、幸せな時間が続くように生きて行きたいと強く思っています。

【自慢の息子へ】 卒業万歳。

卒園式



「ぼれぼれ」卒園式にて
集合写真の様子
～ご卒園おめでとう～

ぼれぼれで過ごした日々や積み重ねを胸に小学校へ行つても頑張つて下さい。ご卒園おめでとうございます。

式も祝辞、証書授与、送辞、歌、スライドショー、答辭と一つ一つが締め切りました。

（ぼれぼれ卒園児のご家族より）平成二十一年度入園のぼくたちは、この春卒園し、小学生になります。先生方が常に工夫をこらしてぼくたちに合った活動を提供してくださいましたおかげで、見る、聞く、触る、体を動かす様々な事を体験することができました。また同じ年頃のお友達と過ごした時間はかけがえのないものになりました。ぼれぼれで体験した事を学校生活でも思い出しながら、ゆっくりのんびり歩んでいきました。

指導してくださった先生方、支えてくださったスタッフの皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

福祉サービス第三者評価 結果概要

福祉サービス第三者評価は、専門的な評価者が当センターの福祉サービスの提供状況を観察・面接して評価し、当センター自らサービスの質の向上を図るために実施しています。

「NPOサービス評価機構」が行いました。評価は、定められた評価基準と手順を基に行われ、場面観察やご家族の皆様・職員のアンケート結果なども評価の参考に

二十五年度の評価は、東京都重症心身障害児(者)在宅医療ケア体制整備モデル事業が行いました。評価は、定められた評価基準と手順を基に行われ、場面観察やご家族の皆様・職員のアンケート結果なども評価の参考に

平成一十六年度 事業計画

平成十七年十二月一日に開設した東部療育センターは、今年の十二月には十年目になります。また今年度は、「全国重症心身障害児(者)を守る会」

が東京都から受けている指定管理者の期間が年度末で一旦満了となる節目の年です。開設以来、特に手厚い医療ケアが必要な超(準超)重症児(者)の積極的な受け入れや地域の中核的療育施設としての使命を果たしてきました。

今年度は、当センターがこれまで行ってきた事業全般について評価検証を行い、次期指定管理の継続に向けて準備を進めていきます。

◇【通所】

一日当たり成人三十人、乳幼児五人の定員で、健康の維持向上と個性に合ったサービスを行い生活の幅を拡大するよう、日々の活動や外出活動を充実させます。成人の送迎バスは六台で運行し、安全な送迎に努めます。



十年目に向けて
「最も弱いものをひとり
ももれなく守る」

◇【入所・入院】

長期入所九十床、短期入所二十四床、医療入院六床で運営し、病床利用率九十三・三%を目指します。医療安全に努めるとともに年齢や成長に合わせて生活の質を高める療育を行います。個性に合わせて工夫を凝らした外出活動やプール活動なども行つていきます。

◇【外来】

一日百人で運営し、在宅の障害児

◇【地域療育支援】

英対策などに力を入れるとともに万が一に備えて日頃から利用者の安全確保施設開放を行います。また、広報紙やメールマガジンなどを通じて情報発信も行っています。

◇【地域療育支援】

一日百人で運営し、在宅の障害児

◇【地域療育支援】

英対策などに力を入れるとともに万が一に備えて日頑から利用者の安全確保施設開放を行います。また、広報紙やメールマガジンなどを通じて情報発信も行っています。

◇【地域療育支援】

英対策などに力を入れるとともに万が一に備えて日頑から利用者の安全確保施設開放を行います。また、広報紙やメールマガジンなどを通じて情報発信も行っています。

このほか、感染予防、虐待防止、防災対策などに力を入れるとともに万が一に備えて日頑から利用者の安全確保施設開放を行います。また、ご家族や地域の関係機関、第三セクターの運営向上に努めています。

このほか、感染予防、虐待防止、防災対策などに力を入れるとともに万が一に備えて日頑から利用者の安全確保施設開放を行います。また、ご家族や地域の関係機関、第三セクターの運営向上に努めています。

今年の一月から三月にかけて当院で行われた行事等について紹介します。

東部あれこれ

「一月」



新成人へお祝いの挨拶
<有馬院長>

「二月」



総合防災訓練
<消火器演習>

「三月」



←これまでのわかつ草をご覧になりたい方はこちらからどうぞ

編集後記

桜の花からツツジ、ハナミズキへと春の色が移ろいでいくこの季節が大好きです。春は別れる季節でもあり出会いの季節でもあります。また新たな希望が芽生える季節もあります。

センターでは、有馬院長から

加我院長へとバトンが引き継がれました。加我院長を中心に関係員皆が一致協力し、新たな希望を膨らませていきましょう。

←これまでのわかつ草をご覧になりたい方はこちらからどうぞ

異常気象のせいでしょうか。八日、十五日と二週続けて大雪に見舞われました。交通機関が乱れました。交通機関が乱れて職員は大変な思いをしましたが、利用者は久しまぶりの雪で喜んでいました。中庭に雪だるまもできました。十二日に今年度二回目の総合防災訓練を行い、呼吸器を着けた方の避難訓練も試みました。いろいろな課題が見えた訓練で、今後はより実戦的な訓練が必要だと感じました。

度二回目の総合防災訓練を行ない、呼吸器を着けた方の避難訓練も試みました。いろいろな課題が見えた訓練で、今後はより実戦的な訓練が必要だと感じました。

ソチで二月の冬季オリンピックに続きパラリンピックが行われ、日本選手の活躍に一喜一憂、大いに感動をいただきました。また、センターの玄関には立派な雛人形が飾られ、各病棟、通所でひな祭りが行われました。女の子だけではなく男の子も健やかな成長をお祝いしました。

十九日にはかもめ分教室の卒業を祝う会が、また二十八日には乳幼児通所ばればれの卒園式が行われ、四月からそれぞれ次へのステップに進んでいきました。

津軽三味線奏者 小島 正資さん(左)
バイオリン奏者 玉城 愛子さん(右)

ボランティア紹介



当センターで開かれた研修会の様子

この事業を通じて、地域の医療ケア研修会を当センターで開催しました。この事業を通じて、地域の障害児(者)の方へ有益な情報発信や、診療に関わるより良い連携体制が構築できればと考えています。

この事業を通じて、地域の医療ケア研修会を当センターで開催しました。この事業を通じて、地域の障害児(者)の方へ有益な情報発信や、診療に関わるより良い連携体制が構築できればと考えています。

平成二十六年三月十二日の反応に第六回院内研究報告会がありました。審査の結果、有馬院長と受賞された皆さん(右から有馬院長、三宮さん、岸野さん、井手先生、田中さん、中澤さん)が発表会で実感を述べました。また、田中美由紀さん(左)が特別賞「経管栄養試行中の聴覚賞「手指衛生指導の取組みと現状について」を受賞する権利です。

井手秀平先生(右)が優秀賞「重症心身障害者への絵本読みに関する考察」を受賞する権利です。

院内研究発表会



有馬院長と受賞された皆さん(右から有馬院長、三宮さん、岸野さん、井手先生、田中さん、中澤さん)

最優秀賞「誤嚥防止目的のスピーチバルブを安全に装着する為に」